

特集

桃山中学校の道徳研究九

本年度、桃山中学校では文部科学省の研究指定を受け、小中9年間、一貫教育としての道徳教育について、研究を行いました。

(1) 授業改善・指導法等の研究

小学校の先生と合同研修会を開催するなどして、授業改善・効果的な指導法等についての研究を行いました。9年間をともに育むという意識を高め合うとともに、「気軽に参観し合う」「お互いを知る」「とともに『地域を誇れる』教材を創る」ということを中心に連携を深めました。

また、授業改善の視点や、平成三十一年度からの（小学校は平成三十年から）の教科化も見据えた中で、桃山中の取組として「副読本」を採用しました。教科化になるということは道徳の時間の教科書ができるということです。数社の出版社の中から、「心つなぎ」（教育出版）を採択し、授業を開いています。そして、これは昨年度から

(3) 道徳の授業公開と京都ゆかり

（3）道徳の授業公開と京都ゆかりの、桃山ならではの教材開発

いえる「口一
テーション道
教科の授業と
六月・十月は「道徳教育推進月間」
とし、公開授業を行いました。桃山中
学校だけでなく、校区内の3小学校と

(2) 道徳の授業の評価にて？

は異なり、学級担任がHRで授業を行うだけであつたものを、副担任の先生も一緒になつて、学年、学校全体で道徳教育を開拓していくようにしまし

(2) 道徳の授業の評価について

前述のとおり、道徳が「特別な教科道徳科」となります。教科になるということは、評価を行うということになります。桃山中では今までにも行つてきました、授業の終末の自己評価「その時間（道徳の時間）の振り返り」（Bアンケート）に加え、Aアンケートを実施することにしました。Aアンケートには、「先週の道徳を受けて何か思ったこと・できたこと」を授業の冒頭に聞くアンケートです。たった1週間、時間をおいただけなのに「授業を終えるの生活の中で」生徒たちは「実践」を行つていいということがわかりました。これは、本年度の研究の中で、たいへん大きな成果と言えます。今までは難しいと思われていた「道徳的実践態度の育ちと見どり」、「道徳の時間の評価」を考えていく上でとても参考になつた内容です。

も連携し、桃山4校のすべてで道德の授業を公開しました。桃山中学校では、この六月は土曜参観日に全校道徳を体育館で実施し、テーマはネット依存、ネットいじめの2本立てで行いました。学年問わず、主体的に手を挙げ、問題解決に向けての意見をたくさん出してくれました。保護者の方々にも授業の感想や建設的な意見など、たくさんアンケートに書いていただきました。ありがとうございました。

また、自作教材は、京都や地域に誇



(4) 終わりに

くことができました。

(4) 終わりに

研究指定を受けることで、教職員の指導案作成やデータ分析など、パソコンと向き合う時間も増え、多忙感が増した一年だったかもしれません。しかし、何気ない生徒同士の会話の中からも、「道徳性」や「道徳的実践力」が確かに育まれ、よりよい生き方とは何かをしつかりと考へていることや、お互いを刺激し合う集団の力が芽生えていることに気づかされる場面が何度もありました。このような生徒の姿を教育実践の原動力として、今後も教職員一同研鑽に努めていきたいと考



文部科学省委託事業
平成二十七年度「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」研究指定校